広告

企画·制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会



スーパーバイザー 小山 薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草 市生まれ。日本大学芸術学部 放送学科に通う。「進め!電波 少年」や「料理の鉄人」など、数 多くのヒット番組の企画・構 成に携わる。執筆活動の他、京 都造形芸術大学副学長、地域・ 企業のアドバイザー、下鴨茶 寮主人などを務める。





ショップバイヤー・メディア・ は、国内外の百貨店・セレクト ン日比谷で行われた発表会で

本

クトの製作に取り組んだ。 際に工房を訪ねるエリア・コ りに、サポートメンバーが実 ックオフ・セッションを皮切 ギャラリー高輪で行われたキ き匠が選出。昨年夏、レクサス 国47都道府県から計50名の若 目身のアイデアを磨き、プロダ ンサルティングを経て、匠は ・月24日、東京ミッドタウ 全国

催することを合わせて発表。 生まれた匠たちの作品を披露 品、過去のプロジェクトから 秋頃には、完成したコラボ作 ロダクトデザイナー)が登壇 プロジェクトも一歩一歩進化 するイベントを京都の地で開 エイティブディレクター し、思いを語った。2019年 ーナー)、辰野しずか氏(クリ

生×モノづくりの視点で実現 広く発信する。LEXUSが ながら、その魅力を「世界」へ い」感覚やテクノロジーを吹 づくりへかける思いと完成し 出の匠、渡邊高章さんのモノ するプロジェクト。福島県選 掲げる「二律双生」を、地方創 き込む。「地域」の特性を深め 「伝統」を守りながら「新し



デザイン関係者などに向けて

3年目となった今回は、全

への出品など、目覚ましい活

匠 七 (コラボレーター)が、新たな の匠と、世界的クリエイター を手にした。 GE/代表取締役社長・デザ 研吾氏(建築家)、廣川玉枝氏 表。コラボレーターである隈 新たな取り組みとして、全国 (SOMARTA クリエイテ ィブディレクター)、森永邦彦 プロダクトを製作するコラボ また当日は、2019年の (ANREALREALA ーションプログラムを発

品、上海での国際的な展示会 ャリティーイベントへの出 やロックフェラー家主催のチ るさと納税の返礼品への指定 が刻まれたプロダクトは、ふ 足。以来、全国の若き匠の挑戦 らをサポートメンバーに発

けになることを願う。 ら、新たな福島土産として広め、手 にした人がその地域を知るきっか

俵を表した金色があしらわれてい 鶴亀や松竹梅で 眉やひげが施され は目玉が描かれていないだるま、 わきだるま、会津だるま、双葉だる りする。農業が盛んな地域では、米 群青色が顔の周りに塗られていた 願達成の際に書き入れるため初め い目玉が入っているだるまや、祈 作り手がいないだるまもある。黒 まの6種類があり、中にはすでに か、三春だるま、矢野目だるま、 ていたり、沿岸部では海を表現し、 福島県内には白河だるまのほ







細かな絵付け技術が光る

渡邊 高章 福島/白河だるま総本舗14代目

福島県白河市で約300年の歴史をも つ白河だるま総本舗の14代目。大学卒 業後、カリフォルニア州立大学サン ディエゴ校でビジネスを専攻する。帰 国後、ファッション業界での勤務を経 て、家業に従事する。2016年には「伝 統工芸はデザインで生まれ変わる。」 をキャッチコピーに新プランド 「Hanjiro」を立ち上げ、様々な企業と のコラボレーションやデザイン性に 特化した商品を製作する。

> LEXUS NEW TAKUMI PROJECT



のだるまの本格的なデザインを手 なっている。福島県内だけでも6 よって形状、彩色、材質などが異 るだるまは、生産される地域に まを製作する白河だるま総本舗の 性がある。江戸末期から白河だる いは、地域ごとに一目見ただけで 産業を、成長産業に」との思いか 「福の豆だるま」を製作した。「伝統 のひらサイズに施したプロダクト 14代目の渡邊さんは、県内6種類 わかるくらい特徴的であり、地域 種類のだるまが存在する。その違 各地の文化表す 伝統の技法生かし 縁起物として広く親しまれてい 슾 STATE OF THE PROPERTY.

モンの生みの親でもある小山 多くのヒットを手がけ、くま バイザーに、放送作家として 年、プロジェクトのスーパー

プレゼンの様子

る。いずれも生活や文化、願いを表

している。

だるまは、立体を紙素材で形成

を応援

ァッション・ジャーナリスト **薫堂氏を迎え、生駒芳子氏(フ**

(1)

ト・プロデューサー)、

<

自身のプロダクトをプレゼン

川一哉氏 (意と匠研究所)

足がかり、ビジネス拡大のき テーション。世界へ羽ばたく

っかけとなる大きなチャンス

文化、産業を渡邊さんはさらに発 継承し続ける技法によって栄えた よって作られる。先人たちが培い、 する「張り子」と呼ばれる技術に

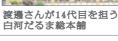
展させるため、自らの好奇心と挑

モノづくりに挑む「匠」

を応援する。

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」(主催:LEXUS) 日本各地で地域の独自性や技術を生かし、新しい

本プロジェクトは20.



を駆使して、他業種とのコラボ

レーションを活発に繰り広げてい

け技術が必要となった。さらには、 描くより難しいため、繊細な絵付 と、デザインする技術の「絵付け」 だるまを形成する技術の「張り子」 さ』に挑戦し続けているという。 合わせることで生まれる『面白 軸に置き、そこに別の何かを掛け 戦心を大切にする。だるまを基本

プロジェクトの後半で方針を大幅 テーマ設定に熟慮した。一度は製 プロダクトの製作に取り組もうと තූ に変えた。ゼロからのやり直しで 作をはじめたものの納得いかず、 プロジェクトでは、価値のある

地域文化を繋ぐプロダクトの完成 焦りも大きかった。しかし技術と に向けて、しっかりと踏み出した。

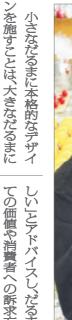
たかった。

精神を持ちながら努力を続ける渡

遵さんの今後の活躍を期待した

本県のだるま産業の多様さを伝え を正確に表現し、県外の人たちに いる。デザインに込められた思い

さんは「福島の張り子産業、だる の地域で継承される工芸品を他の 寧に説明し、使用の許諾を得た。そ 河だるまや福島らしさを出してほ をプロデュースした観点から「白 氏はこれまでの多様なプロダクト た。サポートメンバー に多くの作り手たちが応えてくれ エールを送った。渡邊さんの勇気 ま産業を盛り上げていこう」と Tにおける福島県の匠、橋本彰一 EW TAKUMI PROJEC た。 2016年度の LEXUS 念したが、渡邊さんの思いに賛同 地域の作り手が製作することを懸 人らにプロダクトの目的などを丁 し、応援してくれる声も掛けられ 渡邊さんは、各産地のだるま職 の川又俊明



縁起物でありながら、インテリア 関などに飾りたくなる工芸品だ。 は、神棚だけでなく、リビングや玄 ズでかわいらしい6つのだるま いも丁寧に描いた。手のひらサイ 玉や色使いだけでなく、表情の違 としても幅広い世代からの注目が 地の特徴を見事に表している。目 完成した「福の豆だるま」は各

ど多角的に助言した。 ての価値や消費者への訴求方法な しい」とアドバイスし、だるまとし

う伝統的工芸品に地域性を映して

県内産地それぞれが、だるまとい

ゼンテーションでも多くのバイ期待される。1月に開かれたプレ ヤーらが足を止め、プロダクトに きた。改めて、地域に寄り添って生 を見つめながら、地域を繋ぐこと らしさの表現に注力することがで うプロジェクトだからこそ、福島 かった。完成した「福の豆だるま」 の未来を切り開くきっかけにした 戦だけでなく、福島県の産地全体 み」と話す。自らの技術や販路の挑 県のだるま文化を残していくため は今回のプロダクト製作を「福島 カメラレンズを向けた。渡邉さん づくりに取り組む匠が全国から集 た安堵感に胸をなでおろす。モノ ができた達成感と、無事に完成し

きたい」と先を見つめる。だるまの とでだるまのファンを増やしてい ように辛抱強く、七転び八起きの からも新しいチャレンジをするこ することはもちろんのこと、これ きる大切さを実感した。 に、いつか挑戦したかった取り組 「縁起物としての伝統を大切に



つ一つの仕上がりを確認する渡邉さん



白河だるま

結ぶ「福の豆だるま

助言した川又氏(右)と渡邉さん

産

地

の思

渡邊 高章

福島/白河だるま総本舗4代目